

ChatGPT 4o

共有する

Hi

あなた:

QPIP & 11月から日本で始まる PER.docx  
ドキュメント  
要約してください。

ChatGPT:

ChatGPT

この資料では、「認定特許情報プロフェッショナル(QPIP)」の資格と、日本で11月から開始される「Prior Experience Recognition (PER)」プログラムについて説明しています。QPIPは、特許情報の専門家として国際的に認められる資格で、通常は試験を通じて取得されますが、PERでは特定の条件(10年以上の職務経験など)を満たすことで試験なしで認定を受けることが可能です。

主要な登壇者には、QPIPの立ち上げメンバーであるベッティーナ・デ・ヨング氏や、運営事務局のカルラ・スコルシーニ氏、日本からは齋藤拓也氏が含まれており、PERの詳細や、QPIP資格が特許情報分野においてどのように専門的な価値を提供するかが語られています。また、PERの応募要件、費用、認定後の更新ポイントの取得などについても詳述されています。

4o

あなた:

「認定特許情報プロフェッショナル(QPIP)」の資格について詳しく

ChatGPT:

ChatGPT

「認定特許情報プロフェッショナル(QPIP)」は、Qualified Patent Information Professionalの頭文字を取ったもので、特許情報に関する専門的知識と技能を有す

るプロフェッショナルの国際資格です。この資格は、特許情報の取得・分析・活用において高度な専門知識を持つ人材を認定し、信頼性を保証することを目的としています。

## 資格取得の背景と目的

QPIP 資格は、特許情報の重要性が増す中、特許情報専門家の役割を明確にし、企業や研究機関が信頼できる情報を提供する人材を見極めやすくするために設立されました。特許情報は、企業戦略や技術開発における意思決定の重要な要素であり、専門的な知識を有する資格取得者の存在は、業界全体にとって大きな価値をもたらします。

## 取得方法

QPIP 資格を取得するには、次の 2 つのルートがあります。

### 1. 試験ルート:

- 毎年実施される公式試験に合格する必要があります。
- 試験は 2 日間にわたり、各 8 時間で行われます。1 日目は「新規性調査」「一般理論」「カテゴリー分け」、2 日目は「侵害調査」「ランドスケープ分析」「ケーススタディ」など、特許情報の幅広い領域をカバーしています。
- 試験は英語で行われ、特許情報に関する技術的知識と実務能力が求められます。

### 2. Prior Experience Recognition (PER) ルート:

- 特定の条件を満たすことで試験を免除され、資格を認定される方法です。例えば、10 年以上特許情報の調査・分析業務に携わり、60%以上の時間を特許情報関連の業務に費やしていることが要件の 1 つとなっています。
- 日本では 2024 年 11 月から 2025 年 1 月末までの期間に PER プログラムが初めて実施される予定で、これが最初で最後の機会とされています。

## 資格取得後の更新と継続教育

QPIP 資格取得後は、資格の信頼性を維持するため、継続的な能力開発 (CPD: Continuing Professional Development) が義務付けられています。資格保持者は毎年 10 ポイントの CPD ポイントを取得し、最新の知識を維持する必要があります。更新の

ためのポイントは、セミナーや研修への参加、学会での発表などによって取得できません。

## QPIP の意義と将来展望

QPIP 資格は、特許情報に関するプロフェッショナルの認知度向上を図り、特許情報業務に携わる人材のキャリアの幅を広げることを目指しています。欧米やインドでは既に多くの資格保有者がいますが、日本では認知度が低く、日本人の資格保有者はまだ少数です。

4o

あなた:

日本で 11 月から開始される「Prior Experience Recognition (PER)」プログラムについて詳しく

ChatGPT:

ChatGPT

日本で 2024 年 11 月から 2025 年 1 月末までの期間に開始される「Prior Experience Recognition (PER)」プログラムは、特許情報の分野で 10 年以上の実務経験を持つ人々に対して、試験を受けずに「認定特許情報プロフェッショナル (QPIP)」資格を取得できる機会を提供する特別な制度です。通常、QPIP 資格は厳格な試験を通じて取得されますが、PER はこれまでの経験と実績を評価することで資格取得が可能です。このプログラムは、日本における初の PER プログラム実施であり、再度開催される予定はないため、国内で資格を目指す人々にとって貴重な機会です。

## PER プログラムの目的

PER プログラムの主な目的は、以下の通りです。

- 経験豊富な専門家の迅速な認定:** 既に特許情報の調査や分析の豊富な実務経験がある専門家を迅速に認定し、特許情報の専門家コミュニティを強化すること。
- 専門職のキャリアパスの確立:** 特許情報業務のプロフェッショナルが、QPIP という信頼性のある資格を通じてキャリアの発展を図れるようにすること。

3. **業界への信頼性の提供:** QPIP 資格保有者が増えることで、業界全体の信頼性と知識レベルの向上に貢献すること。

## PER プログラムの応募要件

PER プログラムに応募するには、以下の要件を満たす必要があります。

1. **実務経験:** 過去 10 年間で少なくとも 60%以上の業務時間を特許情報の調査・分析に費やしていること。この経験は連続している必要はなく、総計で 10 年分の実務経験があれば対象となります。
2. **技術分野の学位:** 科学や工学など、特許情報の技術分野に関連する学士号以上の学歴が必要です。
3. **継続的な専門能力開発(CPD):** 過去 5 年間で、継続教育の一環として 5 ポイント以上の CPD ポイントを取得していること。CPD ポイントは、セミナーや研修の参加によって得られます。
4. **その他の条件:** 倫理規範の順守や専門知識に対するコミットメントも求められます。

## 応募方法と必要書類

応募者は、次の書類を提出する必要があります。

1. **履歴書:** 特許情報に関する業務内容や職務経験を具体的に記載した履歴書。
2. **会社発行の証明書:** 現職または過去の職場が発行した証明書で、応募者が特許情報業務に従事していたことを証明する内容が必要です(会社のレターヘッドに記載し、署名入りのもの)。
3. **その他の証明書類:** 特許情報関連の検索や分析業務の割合や使用した検索ツールの一覧など、実務経験を具体的に示す書類。

## 費用と特典

- PER プログラムの申請料は 175 ユーロです。
- PER を通じて認定を受けた場合、初年度の更新料は免除されます。
- PER で認定を受けた後は、通常の QPIP 資格保持者と同様、毎年 10 ポイントの CPD ポイントを取得し、資格を維持する必要があります。

## PER プログラムの意義

日本で PER プログラムが実施されることで、日本の特許情報業界において QPIP 資格の認知度向上が期待され、特許情報専門家の国際的な資格取得がさらに進むことが見込まれます。PER は今回が最初で最後の実施予定であるため、日本の特許情報業界における専門家にとって大きな機会とされています。

1/2

4o

**あなた:**

主要な登壇者には、QPIP の立ち上げメンバーであるベッティーナ・デ・ヨング氏や、運営事務局のカルラ・スコルシーニ氏、日本からは齋藤拓也氏が含まれており、PER の詳細や、QPIP 資格が特許情報分野においてどのように専門的な価値を提供するかが語られています。を詳しく

ChatGPT:

ChatGPT

このイベントでは、QPIP 資格の意義や PER プログラムの詳細について、以下の主要な登壇者が意見を共有しました。

#### 1. ベッティーナ・デ・ヨング氏:

- QPIP の立ち上げメンバーであり、特許情報分野での豊富な経験を持つ専門家です。デ・ヨング氏は、QPIP 資格の構想が初めて持ち上がった 2002 年頃から積極的に関与しており、資格の運営組織の信頼性を確保するための基盤づくりに貢献してきました。
- 同氏は、QPIP 資格が特許情報専門家としての役割を国際的に認知させ、特許情報調査に関する専門家が高いスキルと信頼性を持つことを証明する重要な資格であると強調しています。
- また、資格の認定プロセスや更新要件についても触れ、資格保持者が継続して知識をアップデートし、業界のニーズに応えられるような仕組みづくりが行われていると説明しました。

#### 2. カルラ・スコルシーニ氏:

- QPIP の運営事務局を担当し、事務的な運営面や制度の維持に携わっています。スコルシーニ氏は QPIP 組織の立ち上げ初期から貢献しており、現在は認定の継続的な専門能力開発(CPD)に関連する役割も担っています。

- 同氏は、特許情報の専門家が認定資格を取得し、キャリアパスの一環として活用できるようなシステムを確立することが QPIP の重要な役割であると述べました。
- また、特許情報分野における専門的な能力を証明することで、特許情報調査の依頼主や企業にとっても QPIP 資格は安心材料となることを強調し、今後の認定者数の増加によって日本国内における資格の認知度が向上することを期待していると語っています。

### 3. 齋藤拓也氏:

- 日本から参加している齋藤氏は、正林国際特許商標事務所で弁理士および副所長・シニアパートナーを務めており、2021 年から QPIP の活動に参加しています。
- 齋藤氏は、もともと QPIP について詳しく知らなかったものの、参加を通じてその意義や資格認定の厳格さに感銘を受け、日本における認知度向上の必要性を感じたと述べました。
- 齋藤氏は、日本の特許情報専門家がグローバルな資格を取得し、そのスキルを証明することの重要性を語り、PER プログラムが経験豊富な日本の専門家にとって絶好の機会であると強調しました。また、資格保持者として定期的に参加される Web 会議に参加し、組織の運営や国際的なネットワーキングに関与する意義についても触れています。

## QPIP 資格と特許情報分野への価値提供

各登壇者は、QPIP 資格が特許情報分野で提供する専門的価値についても意見を述べています。QPIP 資格は、以下の点で業界に貢献しています。

- **専門的な信頼性の向上:** QPIP 資格は、特許情報の調査や分析のスキルを公式に証明するものであり、依頼者や企業が安心して業務を依頼できるようになる。
- **キャリアパスの確立:** 特許情報分野の専門家が自らのスキルを証明し、より多くのキャリアの機会を得るための手段として、QPIP 資格は国際的な信頼性を提供します。
- **業界全体の認知度向上:** 登壇者たちは、QPIP 資格が増えれば、業界の地位向上にもつながり、特許情報の専門家としての認知度が上がるとしています。